あ　い　さ　つ

関東地区高等学校ＰＴＡ連合会　会長　金丸　　正

第６７回関東地区高等学校ＰＴＡ連合会大会山梨大会誌の発刊にあたり、ご挨拶申し上げます。

まず初めに、新型コロナウイルス感染症の影響下にあるとはいえ、本大会は紙上開催となりました。目的の一つである、関東地区高等学校ＰＴＡ会員代表３千名が一堂に会し、ＰＴＡとしての資質を高める機会を設けることが出来ず、主催者として大変申し訳なく思っており、お詫び申し上げる次第であります。本大会は紙上開催となりましたが、全国島根大会はＷｅｂ開催となりました。ＰＴＡとしての学びの場を確保していただき感謝いたしております。

昨年度を振り返ってみますと、学校では臨時休校や部活動、各大会の中止など大きな影響を受けました。また、ＰＴＡ活動においても、大会や行事が中止になるなど、同様でありました。進路面においても新型コロナウイルス感染症の影響から、オープンキャンパスへの参加が出来ず、志望する学校の実際の雰囲気を感じる機会を逸したまま、志望校の決断を迫られたり、オンラインによる面談への切り替えなど、例年とは違った形での対応は子供にも保護者にも、教職員にも大きな負担となったと思います。

さて、本大会のメインテーマ、

「子どもたちの自律を支援するために、今、私たちにできること」

という観点から考えてみますと、「自律」とは自分をコントロールすることと考えられます。言い換えれば心が健康な状態です。今の子供たちは、外出制限や人との接触制限（ソーシャルディスタンス）が求められ、良好な状態にあるとは言えないのではないでしょうか。

そういった中で学校におけるスクールカウンセラーの配置、家庭での会話、地域との関わり等が求められていると思います。また、学校における教員の多忙化についても目を向ける必要があるのではないでしょうか。子供たちを指導する教職員の先生方が日々の業務に追われ、子どもと向き合う時間が確保できない、という現状は見過ごせません。ＰＴＡとしても学校と連携を図りながら、教員の負担軽減に取り組むことが子供たちの自律にもつながると感じております。

休業期間中に取り沙汰された「オンライン学習」についても現在は大学等で多く導入されていますが、今後は高校でも多く活用される時が来ると思います。その時にむけて「１人１台端末」の早期実現や、家庭における通信環境の整備など、災害や感染症の発生等による学校の臨時休業等の緊急時においても、ＩＣＴの活用により全ての子供たちの学びを保障できる環境を、早急に実現していく必要があると思います。これらのことが、今、私たち（ＰＴＡ）にできることの一端と捉え、会員の皆様にも意識を向けていただきたいと思います。

結びに本紙上開催に際しまして多大なるご協力を賜りました皆様方に対しまして心から厚く御礼申し上げますとともに、関東地区高等学校ＰＴＡ連合会加盟の各県連合会及び各校ＰＴＡの益々のご発展と、会員の皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げましてご挨拶とさせていただきます。

ご　挨　拶

全国高等学校ＰＴＡ連合会　会長　泉　　満

第６７回関東地区高等学校ＰＴＡ連合会大会山梨大会が、山梨県高等学校ＰＴＡ連合会主管のもと、新型コロナ感染症の影響により通常開催が困難な状況のなか、紙上開催という新たな様式に取り組まれますことに対し、お祝い申し上げますとともに、共催者として感謝申し上げる次第です。

さて昨年より、今だ続く新型コロナ・パンデミック、一方でコロナ禍は、人類に多くのことを気づかせました。例えば「あたりまえのことと認識し、社会活動の基盤と捉えてきた、人と人との緊密なコミュニケーションは、時として制限することが求められるものであること」「信頼を寄せてきた広域な移動やサプライチェーンは、時として機能し得なくなるもの」など、こうしたことに気づかされた私たちは、医療現場にも、教育現場にも、家庭にも、モノづくりの現場にも、行政にも、更には都市の在り方においても、デジタルシフトや強靭性を高めるなど、これまでとは違った「新しい社会様式」を期待することとなりました。「新しい社会様式」の実現には、新しいイノベーションが求められます。この期待されるイノーベーション像の実現には、社会総がかりで取組みや教育界、政策当局に加え家庭・地域が自分ごととして積極的に参加することが求められています。

このようなコロナ禍で加速する社会変容の中、本年１月の中央教育審議会から「令和の日本型学校教育」の構築を目指して、答申が打ち出されました。これは、ポストコロナ時代の新しい学びのポイントを示す各教育段階を含む幅広い提案です。善くも悪くも歴史の教科書に刻まれることになるであろう２０２０年、国難ともいえる未曾有の危機、そして歴史的な社会の分岐点に居合わせた私たちが、子どもたちと教育と日本の未来のために今すべきこと、使命とは何か、問われています。

今や学校という限られた場だけですべてを解決することは極めて困難な状況です。多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく健やかな学びを保障するためには、家庭・学校・地域と連携・協働し感染症対策の徹底とともに社会に開かれつながる教育を実現することが急務です。すなわちソサイアティ５．０時代の持続可能な社会と幸福な人生の創り手として、予測不可能な未来社会を自立的に生き、多様な人々と協働しながら社会の形成に創造的に参画するための資質・能力の育成が求められているのです。

そのうえでコロナ禍の逆境と社会総ががりの探究が子どももおとなも大きく成長させ、人と人、学校と家庭・地域の絆を結びなおす機会となるとともに、コロナ禍を乗り越えた経験が子どもたちや教職員、保護者、地域の人たちの大きな自信と誇りになり、子どもや学校を支える、教育に参画する土壌がレガシーとして受け継がれていくはずです。

その意味においては、今回のメインテーマ「子どもたちの自律を支援するために、今、私たちにできること」は、まことに時宜を得たものであり、地域の将来、日本の未来を担う人材を育むためのキーワードとして重く受け止める必要があります。本大会を通じ、新たな様式へ参加されるお一人おひとりの学びと気づきを深めていただくとともに、各学校のＰＴＡ活動の進化に資するヒントを得る貴重な機会になることを期待しております。

終わりに、本大会開催に関わる全ての方々にＰＴＡ活動に対するなお一層のご支援ご協力をお願い申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

関東地区高等学校ＰＴＡ連合会大会
山梨大会の大会誌の発刊に寄せて

山梨県教育委員会　教育長　三井　孝夫

第６７回関東地区高等学校ＰＴＡ連合会大会山梨大会誌の発刊にあたりまして、御挨拶申し上げます。

関東地区高等学校ＰＴＡ連合会の皆様におかれましては、日頃から，それぞれの県におきまして、高等学校、特別支援学校のＰＴＡ活動を通じて、子供たちの健やかな成長と教育環境の充実・発展にご尽力されておりますことに対し、深く敬意を申し上げます。

さて、今日、高度情報化やグローバル化の急速な進展、人口減少や高齢化等、社会情勢がめまぐるしく変動する中、安全・安心に対する意識や多様な学びの必要性の高まりなど、教育を取り巻く環境も大きく変化しております。さらに、新型コロナウイルス感染症の拡がりに伴う社会の変化は、子どもたちの成長を支える教育のあり方にも大きな影響を与えております。

このような状況にあって、子どもたちが自己の能力と可能性を最大限に高め、自己実現と社会貢献を図ることができるようにするためには、家庭や地域社会との密接な連携･協働が大きな力となります。本大会のメインテーマは、「子どもたちの自律を支援するために、今、私たちにできること」であり、未来を担う子どもたちの豊かな成長を社会全体で支えることが大切になってくると考えております。

山梨県では、新しい時代を拓く本県教育の進むべき方向を見定め、その実現に向け、基本的な施策を盛り込んだ「山梨県教育振興基本計画」を策定し、取り組みを進めております。変化する社会を生き抜き、世界に羽ばたく人材を育成するため、基礎となる確かな学力はもとより、豊かな心、自己実現を図る力を子どもたちが身に付けられるよう、学校教育の更なる充実に全力で取り組んでおります。

現在、新型コロナウイルス感染症の収束が見えない中、ＰＴＡ活動は多くの対応を迫られているかと思います。ＰＴＡの皆様方には、引き続き、家庭・学校・行政の連携を図る中で、様々な課題解決に向けて取り組んでいただきますようお願い申し上げます。

大会の中止により、皆様が一堂に会して学校教育や家庭教育についての取組成果の発表や研究協議の場をなくされてしまいましたが、本大会誌が今後の活動に十分活かされるよう願っております。

結びに、関東地区高等学校ＰＴＡ連合会の、益々の充実発展と、皆様方の御健勝・御活躍をお祈り申し上げまして、激励の言葉といたします。